

「今年は防災で連携！京葉工業地帯の地震防災に
学校・地域の連携で取り組む」



千葉県立姉崎高等学校長 岡本 次夫

1 学校の規模及び地域環境

本校の創立は、昭和53年で、今年で34年目を迎える。生徒数は、全校で479名、12クラス規模の学校である。学校を取り巻く環境は、西側に約3kmの位置に京葉コンビナート、半径約2km以内に青葉台小学校、姉崎中学校、姉崎東中学校、帝京大学ちば総合医療センターがあり、その中心に本校があることから大規模災害発生時は避難場所となることが予想される。

本校では、開かれた学校づくりを推進する中で、地域の自治体や地域の敬老会・小中学校などとミニ集会や高齢者の集い、小学校への出前授業などで地域と積極的にコミュニケーションを図り連携している。

平成23年度は「地域との連携を深める防災教育公開事業」の指定を受け、これまでの地域連携に加え大企業や総合病院と連携を図り情報ネットワークの構築・強化を進めた。

2 取組のポイント

(1) 高校生に、自助・共助・公助の大切さと大規模災害発生時に被害を最小限に食い止めるために必要な知識や技能を習得させることを目指す。

(2) 大学・企業・病院・地域等が有する危機管理について専門的な知見を、防災教育を通して実践し学校と地域の間に強いネットワークの構築を目指す。

(3) 千葉県教育委員会との連携により県内高等学校等に本事業の成果及び活用について周知する。

3 取組の概要

実施時期	計 画 事 項	参加者
4月	危機管理マニュアル等配布・事業説明	本校職員
5月	第1回防災担当者連絡会議	担当委員
6月	防災アンケート調査開始・回収・集計	生徒・職員・地域住民
7月	校内夏季避難訓練 第1回防災講演会 非常食作り体験	生徒・職員・地域住民・消防署員・ 大学職員
8月	防災学習会(出光興産・西部防災館) 避難所体験 第2回防災担当者連絡会議 第1号姉高防災通信発行	生徒・職員・地域住民・担当委員・
9月	市原市総合防災訓練参加 第2回防災講演会 青葉台地区敬老会防災講話	生徒・職員・地域住民 東京災害ボランティア次長
11月	姉高祭防災展示 公開防災教育 LHR	生徒・保護者・職員 他校教員

【地域連携】 23年度指定校 ③県立姉崎高等学校

12月	地域連携 1000カ所ミニ集会 青葉台3丁目防災訓練参加 校内冬季避難訓練 第3回防災講演会 第3回防災担当者連絡会議 第2号姉高防災通信発行	生徒・保護者・職員 他校教員・消防署職員・担当委員
2月	防災教育最終報告会 防災教育報告書発行	生徒・職員

姉崎地区あるいは、それぞれの居住地区で共助の担い手として活躍することが期待できる。

(2) 災害発生時に、防災の視点で見た学校周辺地域（市原市姉崎地区）の地質学的要因、地理的要因、人的要因、環境的要因などの情報を学校と地域住民が共有することで、素早い避難や救助・安全対応が可能になり災害被害を最小限に食い止めることが期待できる。

(3) 大地震や台風などの自然災害は、人間の力で食い止めることはできないが、災害による被害は我々の意識により、減らすことが可能である。災害発生時に自己の安全を確保し、高校生として何ができるかを考えることで、ボランティア活動への理解と社会の一員としての意識を育てることができる。

(4) 大学が有する危機管理について専門的な知見を、防災教育、防災体制の整備をとおして実践することができる。

(5) 千葉県教育委員会との連携により、県内高等学校に本事業の成果及び活用について周知できる。

4 防災教育担当者連絡委員会

	氏名	所属及び役職
1	川端 信正	地震防災アドバイザー
2	相川 宏	姉崎37地区町会長
3	小川 伸弘	帝京大学ちば総合医療センター事務次長
4	喜多村常功	出光興産株式会社総務課広報渉外統括
5	石橋 辰夫	姉崎消防署副署長
6	始関 廣幸	姉崎消防署副署長
7	小出 均	姉崎消防署警防係長
8	佐久間芳彦	姉崎消防署警防係長
9	長谷川 信	県学校安全保健課 指導主事
10	野澤 省吉	市教育委員会 指導主事
11	花澤 祥浩	市防災課グループリーダー
12	大鐘 豊	市原市役所姉崎支所長
13	岡本 次夫	本校校長
14	稲葉 秀文	本校教頭
15	何木 美子	本校事務長
16	相澤 敬吾	本校教諭
17	川上 悟	本校教諭

5 期待される成果

(1) 高校生は、共助の大切な担い手であることから、生徒にはこのことを強く意識させ、災害発生時に必要な知識や技能を習得させる。このことにより、防災に関する正しい知識や高い意識を習得し、災害発生時に自助・共助を意識して行動し

6 具体的な取組

(1) 運営組織の立ち上げ

次の機関と連携し、組織を立ち上げ本事業に取り組んだ。

県立姉崎高等学校、青葉台町会協議会、地域青葉大学、青葉台小学校、姉崎中学校、姉崎東中学校、千葉科学大学、青葉台睦会、千葉県教育委員会、出光興産株式会社、帝京大学ちば総合医療センター、姉崎消防署、千葉県西部防災センター、市原市役所防災課、市原市役所姉崎支所、日本赤十字千葉県支部



(第1回防災担当者連絡会議)

(2) 防災アンケート調査開始・回収・集計
青葉台地区住民346名、本校生徒470名、本校職員40名に対し、東日本大震災を含めた防災意識等について、調査を実施、学校と地域が連携して取り組む防災教育についての検討資料とした。

(3) 夏季校内避難訓練

大地震発生を想定して「押さない」「走らない」「しゃべらない」を合い言葉に避難訓練を実施。1番にグラウンドに集合できた学年は1年生で、5分30秒であった。グラウンド集合後、2年生はAED講習、1・3年生は防災教育ビデオを視聴後、交通機関途絶の場合の帰宅経路を地図上で確認する作業を行った。



(4) 第1回防災講演会

「千葉県の地震・津波災害と高校生にできること」と題し千葉科学大学准教授藤本氏に講演をいただいた。

地域住民の方も24名参加。



(5) 非常食作り体験

一斗缶を鍋代わりに使い、ハイゼックス袋を使用した非常食作りを行った。



(味付けいろいろ)

(6) 防災学習会

防災学習会には地元町会の皆さん、本校PTA、生徒、学校職員、合わせて34名が参加し出光興産の危機管理体制や千葉県西部防災センターでの体験学習を行った。



(暴風雨体験)



(震度7地震体験)

(7) 釜炊き出し体験と避難所体験

地元住民を含め約40名が参加した。避難所体験では、板の間に段ボールハウスを作り寝心地を体験し、避難所で何が一番必要かを考えリスト作りを行った。



(8) 第2回防災担当者連絡会議

「これからは、今までの概念にとらわれない防災計画が必要である」というアドバイスをいただいた。

同時に防災通信を発行し、生徒や地域住民に配布した。



(9) 市原市総合防災訓練参加 (本校会場)

本校生徒が、青葉台団地からお年寄りを学校まで避難誘導する体験や非常食作りの実演指導を行った。



(10) 第2回防災講演会

全校生徒と地域住民合わせて約500名が参加して「高校生は大規模災害発生時に自助・共助の担い手として何ができるか」と題し「東京災害ボランティアネットワーク」の福田氏に講演をしていただいた。



(11) 姉高祭 (防災展示)

非常持ち出し袋の展示や非常食作りの説明、心肺蘇生法講習、東日本大震災後の新聞記事や被災地の写真などの展示を行った。

【地域連携】 23年度指定校 ③県立姉崎高等学校



(ランプ作り)

(仮設トイレ)

(12) 全県下公開防災LHR

本事業の目玉でもある公開LHRを行い、千葉県教育委員会をはじめ他校の教職員や本校の保護者・地域住民の方々の多数の参加をいただいた。



(13) 青葉台3丁目防災訓練参加

生徒は、期末試験直前のため参加できなかったが、本校保護者・職員が参加した。

仮設トイレ作り、ランプ作り、ロープワーク、チェーンソーの使い方にとりまきで多岐にわたる訓練が行われた。



(ロープワーク)

(14) 冬季校内避難訓練

一番にグラウンドに集合した学年は1年生で時間は4分40秒であった。

グラウンドに集合した後に、1年生は降下訓練、2年生は消火訓練、3年生は消防署の指導による心肺蘇生法の講習を体験した。

更に今回は、出光興産にお願いして「企業における危機管理」について講演をいただいた。



(第3回講演会)

(15) 第3回防災担当者連絡会議

これまでの成果を発表し、総括を行うと同時に、第2号防災通信を発行した。

防災教育を推進する必要がある。

② 今回学習した防災に関する技術や知識を継承して広める機会を作ることが大切である。

③ 防災も含め今まで以上に地域と連携した学校づくりを進める必要がある。

7 実践に当たって苦労・工夫した点

(1) 実践に当たって苦労した点

① 地域と連携を深める防災教育公開事業を進めてきたが、事業の周知や広報の難しさに苦労した。

② 防災教育公開LHRや姉高祭展示物の資料作りや資料収集に苦労した。

③ 学校行事や校務多忙の中、本事業の計画立案から実施に至るまで多忙を極めた。

(2) 実践に当たって工夫した点

① 本校のホームページや地域新聞・広報いちほら、など行政と連携することでかなり周知できた。

② 日本赤十字や大学・公的防災機関などから資料収集ができた。

③ 本校職員で組織する防災委員や生徒・保護者の積極的な参加を工夫し、役割を分担した。

9 本事業の成果を活用した、平成24年度の実績

(1) 平成24年度より大規模災害に備えて備蓄食料及び防災用品を全校生徒分と職員分を用意することができた。

(2) 本事業の研究成果を千葉県教育委員会との連携により全県下に広く伝えることができた。

10 おわりに

本校では、昨年度、千葉県教育委員会から防災教育の指定をいただき、地域との連携を柱に研究を進めてまいりました。

昨年3月の東日本大震災では、多くの方が被災されました。そのような災害時、高校生は、それぞれの地域で共助の大切な担い手となることが期待されています。

この取組をとおり、生徒に防災に関する正しい知識を学ばせ「自分の生命や安全は自分で守る」安全指導を徹底し、生徒の危機回避能力や危機予知能力を育成し、自他の生命を尊重する心を育み、将来、生徒が地域社会の構成員の一人として共助・公助の担い手となり、それぞれの立場で活躍されることを祈念しています。

8 成果と今後の課題

(1) 成果

① 防災教育を学ぶことによって、学校だけではなく地域を巻き込んで学習する機会ができ、自助・共助の意識を持つことができた。

② 災害のイメージを考えることによって、高校生が主体的に関わるボランティア意識を持つことができた。

③ 地震に関する基本的な知識や防災対策等の基礎的技術の習得ができた。

(2) 課題

① 1年限りの計画ではなく、継続的な